

◇ 大分空港・宇宙港将来ビジョン(素案)の概要

■ 大分空港・宇宙港将来ビジョン策定の趣旨

大分空港は本県唯一の空の玄関口であり、地域発展に欠かすことのできない重要な交通基盤。今後、本県の地方創生を加速させるためには、大分空港の活性化が必要不可欠である。現在、大分空港では、アジア初の水平型宇宙港の実現や国内唯一となるホーバークラフトによる海上アクセスの導入など、本県独自のプロジェクトが進められているところ。これらを機に大分空港の更なる活性化を図るため、大分空港の目指すべき将来像を明確にし、その実現に向けて官民一体となって戦略的に取り組むべき施策展開の方向性や空港運営のあり方について取りまとめた。

■ 乗降客数目標

	2023(R5)年度	短中期目標 2032(R14)年度	長期目標<参考> 2050(R32)年度
合計	約 200万人	約 260万人	約 320万人
国内線	約 190万人	約 230万人	約 280万人
国際線	約 10万人	約 30万人	約 40万人

将来像

『ドリームポートおおいた』の実現 ～陸・海・空そして宇宙につながる唯一無二の空港へ～

■ 施策展開の方向性と空港運営のあり方

航空ネットワークの拡充

＜取組の方向性＞

- 路線誘致・定着に向けた戦略的なエアポートセールス体制の構築
- 国内線：三大都市圏との路線充実
：新たな地域間路線誘致の検討
- 国際線：韓国路線の早期再開
：東アジア・東南アジア
主要都市路線誘致の検討

◆ 国内線の拡充

- ・既存路線の利用拡大
- ・羽田・成田・関空路線等による訪日観光需要の取り込み
- ・新たな地域間路線の就航可能性検討 等

◆ 国際線の拡充

- ・海外旅行博やSNS等を活用した戦略的なプロモーション活動の展開
- ・LCCの誘致・路線拡充 等

アジアと宇宙をつなぐ 宇宙港の実現

◆ 「有人宇宙旅行」等の将来的な輸送ビジネスに対応し得る「宇宙港」の実現

- ・空港と宇宙港との併用運用
- ・宇宙港に必要な関連施設・設備の整備
- ・宇宙港を活用した観光プログラムの構築
や受入環境の整備 等

◆ アジアにおける宇宙ビジネスの中核拠点化

- ・宇宙ビジネスの創出
- ・国際的な宇宙ビジネスの展開に向けた環境整備
- ・宇宙関連企業の誘致 等

◆ 宇宙人材の育成

- ・理数教育やSTEAM教育等の推進
- ・国際的視野を育む機会の提供
- ・宇宙ビジネスの活用余地や他産業との連携を検討する機会の提供 等

空港アクセスの充実

◆ 海上アクセスの導入

- ・令和5年度中の運航開始を目指したホーバークラフトの調達と発着地整備
- ・ホーバークラフトの希少性やアクティビティとしての魅力を活かした新たな空港利用需要の創出 等

◆ 大分空港を起点としたMaaSの導入に向けた取組の推進

- ・複数の移動手段を最適に組み合わせ、検索・予約・決済等を一括で行うことのできるシステムの導入
- ・移動サービスと飲食・宿泊・観光等との連携による付加価値の提供 等

◆ 多様な移動サービス等の検討

- ・交通インフラの整備・拡充や観光地へのダイレクトアクセス整備等の検討
- ・空港内駐車場の機能拡充のあり方検討
- ・次世代モビリティを含む多様な空港アクセスの将来的な導入可能性の検討 等

空港機能の拡充 及び 魅力向上

◆ 空港利用者の満足度向上

- ・先端技術の導入等によるストレスフリーな空港環境の実現検討
- ・ユニバーサルデザイン化の推進 等

◆ 地域とともに進める空港づくり

- ・空港の魅力を活かした地域密着型イベントの開催
- ・宇宙港やホーバークラフトの取組を通じた交流機会と学習機会の創出
- ・空港を活用した大分県の魅力・観光情報等の発信や県産品販売の強化 等

◆ カーボンニュートラルの推進

- ・空港施設・空港車両からのCO₂ 排出量削減
- ・大分県の強みを活かした再生可能エネルギー由来電力の活用検討
- ・空港の再生可能エネルギー拠点化検討 等

◆ 空港運営におけるリスクマネジメント力の強化

- ・パンデミックや災害等のリスク対応力強化
- ・路線多角化によるリスク分散 等

目指すべき将来像の実現に向けた戦略的な空港運営

◆ 関係団体との連携強化

- ・行政、空港ビル運営会社、空港アクセス事業者、経済団体、観光関係者等による緊密な連携体制の構築
- ・機動性・柔軟性を持った取組の推進 等

◆ コンセッション方式の導入検討

- ・民間の資金とノウハウを活用した一体的・戦略的な空港運営を可能とする
コンセッション方式の導入検討 等